



2月号

横浜市立中田小学校

学校だより

第480号



中 田 小

令和 3 年 1 月 29 日

学 校 教 育 目 標

さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい
共に生きる力を育てます。

中田小ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/>



息を合わせるということ 生きているということ

副校長 鎌田 健二郎

昨年の今頃はというと、新型コロナウイルスの話題も海の向こうの話で、まさか一か月後に横浜市立学校だけでなく全国の学校が臨時休業になるとは思ってもいなかった頃でした。その臨時休業が明け、分散登校を経て学校が再開した頃も年末?いやいや秋頃には事態も収束しているのではないかと皆様も思い描いていたのではないのでしょうか。

しかし、その予測は大きく外れ、令和3年の年明けは感染者が増え続けるという状況の中で迎えることとなり、現在も2度目の緊急事態宣言下という状況です。本校では、これまで登校時に一斉に教室に入るようにしていたのを学校に着いた班の児童から教室に入るようにして昇降口での密集を避けるようにしました。また、学習活動の中で児童自身が密集を避けることができるよう声かけをするなどして感染症拡大防止に改めて取り組んでいるところです。年のはじめに一日も早い感染症拡大の収束を皆様とともに祈りたいと思います。

さて、私事で恐縮ですが、中学・高校と吹奏楽部に所属していた私は、大学を卒業して教職に就くと同じタイミングで高校の吹奏楽部の卒業生で結成した吹奏楽団で今もトロンボーンという楽器の演奏を続けています。ほぼ毎週土曜日の夜、公会堂や地区センター、コミュニティハウスに集まって練習をしています。昨年の6月には、初めて1,300人規模の大きなホールで演奏会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期としました。もちろん、日々の練習にも大きな影響を受け、非常事態宣言はまだ出されていなかったものの、社会的な情勢から2月末の練習を最後に無期限の中止としました。それまで、土曜日の夜は練習に参加して家には居ないことが日常だったのに、毎土曜の夜に家に居るという「非日常」を味わうことになりました。(そんなことから、以前学校便りにも書かせていただいた「散歩」を始めるようになったのではあるのですが・・・)

非常事態宣言が5月6日に解除はされましたが、しばらくは練習中止を継続していました。その間に、管楽器の演奏でも一定の距離を取れば飛沫が飛んで感染することはないという科学的実証が出たことと、20人程度の練習のために500人規模の公会堂のホールを借り切ることができ、広い舞台の上でそれぞれ距離を取って演奏ができると云うことから、いよいよ6月20日に練習をすることになりました。練習開始時刻の17時30分過ぎたあたりからぼつぼつと集まり始め、当日は22人が参加しました。もし感染者が出た場合に備えて、参加者名簿に住所・氏名を記入してから、久し振りに楽器に息を吹き込み、音出しを始めました。合奏の開始時刻は18時30分、はじめに「コラル」といって四声の賛美歌をもとにした簡単な曲で和音を奏でるのが三十数年間の当団のしきたりです。

いよいよ、指揮棒が振り下ろされるので、指揮者の動きに合わせて息を吸ったその瞬間、私の隣から同じように息を吸う音が聞こえてきました。それまで、「リモート合奏」ということで、本校のマーチングバンドの演奏に加わらせていただいたことはありましたが、無機質に拍を刻むカウントに合わせて演奏するのになんとなく違和感を感じていた私は、やはり音楽の基本はこれなのだと感じました。ともに、その場に集い共通の指揮者の下、共通の指揮に合わせてともに息を吸い、ともに歌うなり演奏するなりの表現をする、これなのだ改めて実感しました。一般に「息を合わせて」というと「気持ちを揃えて」という意味で用いられるかと思いますが、その本来の意味はこれなのだなども感じ入りました。

そして、その時に思い出したのが、谷川俊太郎さんの「生きる」という詩でした。6年生の国語の教科書にずいぶん前から掲載されているので、覚えていらっしゃる方もおられるのではないのでしょうか。「生きているということ いま生きているということ」から始まるあの作品です。生きているという実感、人とともあり、人とともに生きているという実感から、この「息を合わせるということ」という一節もぜひ加えて欲しいなあ、と思った次第です。

ともに息を吸うのを感じ取ることができるほど近くにいる、心を通わせながらともに学ぶことが難しくなっている現在ですが、だからといって心を通わせる部分が失われては、学ぶことの意味の多くが失われてしまいます。学年の修了、6年生にあっては卒業までの2ヶ月間、学習のまとめはもちろんのこと、心の醸成も目指して教育活動に取り組んでまいりますので、どうぞ協力よろしくお願いたします。

なお、蛇足ではありますが、当団の吹奏楽練習は年明けから再び練習中止中であります・・・。